



ショートコメント

★★★★

Data 2021-145

監督・脚本：ギヤスパール・ノエ  
 出演：モニカ・ベルッチ／ヴァンサン・カッセル／ジョー・ブレスティア／アルベール・デュポンテル

# アレックス STRAIGHT OUT

2020年／フランス映画  
配給：太秦／90分

2021（令和3）年11月13日鑑賞

シネ・リーブル梅田

## 👁️👁️ みどころ

“イタリアの至宝”、モニカ・ベルッチが壮絶なレイプ！暴行を！20年前にカンヌで賛否両論に湧いた問題作『アレックス』は、時間軸を逆転させた構成でも注目されたが、改めて時系列を見直し、修正してみると・・・？

セックスを巡る“難解な哲学論議”を含む素材はすべて元のままだが、「時はすべてを破壊する」をテーマにした本作は、編集によって全く別の映画に！？この再編集だけで大ヒットすればボロ儲けだが、さて・・・？

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

◆時を遡ること約20年前、“イタリアの至宝”と呼ばれた美人女優、モニカ・ベルッチが壮絶なレイプと暴力を受ける映画『アレックス』（02年）（『シネマ2』165頁）は、カンヌ国際映画祭での賛否両論の中で大ヒット！同作のテーマは「時はすべてを破壊する」だったが、そのテーマ通りに、ストーリーを“逆回転”させていく構成と、アレックスの新旧二人の恋人による難解な哲学論議は、超難解ながら「R-18」指定にふさわしく超過激な出来になっていた。

「これは別の映画になったぞ！劇場公開するべきだ！」という、監督・脚本・撮影・編集のギヤスパール・ノエの主張に沿って、そんな映画がなぜか今、公開！観客は少なかったが、彼らはきっとモニカ・ベルッチの大ファンばかりのはずだ。

◆映画は撮影したショット、シーン、シークエンスを編集段階で繋いだり、削除したりしながら完成させる芸術。したがって、編集次第で“素材”はどうにでも料理できる。理屈上それはわかりきったことだが、前作の構成を“逆回転”させて作った本作は、同じ『アレックス』ながら、全く違う『アレックス』になっている。

①冒頭、アレックスと新恋人のマルキウス（ヴァンサン・カッセル）との情事風景をたっぷり見せつけた後、物語は、②地下鉄内での、セックスについての3人の“哲学談義”を経て、③パーティ会場での乱痴気シーンに移る。そして、会場内でのアレックスとマル

キュスとの口論によって、会場を飛び出したアレックスは、タクシーを拾えなかったため一人地下道に入ると、ゲイと絡んで喧嘩していた男の目に留まったから、さあ大変。そこから、④今なお語り継がれる、ハードなレイプと暴行シーンが展開され、その後、⑤マルキュスとピエール（アルベール・デュボンテル）が犯人のテニアを探して、ゲイクラブ「レクタム」に突入していくストーリーになっていく。なるほど、これが時系列に沿った『アレックス』の物語なのだ。

◆誰でもベートーベンの交響曲は大好き。その中でも、第3番（英雄）、第4番（田園）、第5番（運命）、第9番（合唱）が有名だが、私はあまり有名ではないものの、ド派手な第7番が大好きだ。私は本作の予告編を何度も観たが、そのシークエンスは黄色のワンピースを着た、なんとも開放的な女性アレックスが芝生の上に寝そべて本を読んでいる風景。そのバックでは何人かの女性が日光浴や昼寝を楽しみ、子供たちが楽しそうに遊び回っているから、全体としていかにも幸せそうな風景だ。そして、そのバックに流れる音楽がベートーベンの交響曲第7番だ。

そんな予告編の雰囲気と、本編のレイプ・暴行シーン、更にゲイクラブ内での壮絶な復讐劇の姿はあまりにもかげ離れたものだが、予告編で観たそんなシークエンスは、一体いつ流れてくるの？そして、そのシークエンスの意味は？そんな演出の賛否は？

2021（令和3）年11月30日記